

2班

須川，松橋，須田，沼澤，  
島村，中山，別当

**釜房湖畔公園開発反対**



# 交通手段を考えてみる

- ◎ 仙台市内からは...
  - ◎ 電車は通っていない
  - ◎ 自家用車、バスで約1時間
  - ◎ バスの運行ダイヤは、1日当たり平日5往復、休日は3往復
- 
- ◎ バス利用は現実的ではない⇒自家用車、バイクの準備が必須となる。

# 釜房湖畔公園までの道程

- 仙台市内からだと...
- 国道286号線を使うことになる
- ◎ すると...
- ◎ 釜房湖畔公園の入り口は286号線からの1か所のみ



- ◎ 必然的に釜房湖畔公園が286号線のボトルネックとなってしまう！

# まとめ

- ◎ 土日祝日など人の集中する日に、
- ◎ 周辺道路の混雑を誘発する。
- ◎ そもそも、
- ◎ 人を集めるのに適した立地ではない！

# 経済面から見た湖畔公園

# 湖畔公園拡張計画

- さらに、200haを超える区域を公園化整備中  
全部あわせて600haを超える計画。
- 現在の面積約305.1haの倍以上の広さに。

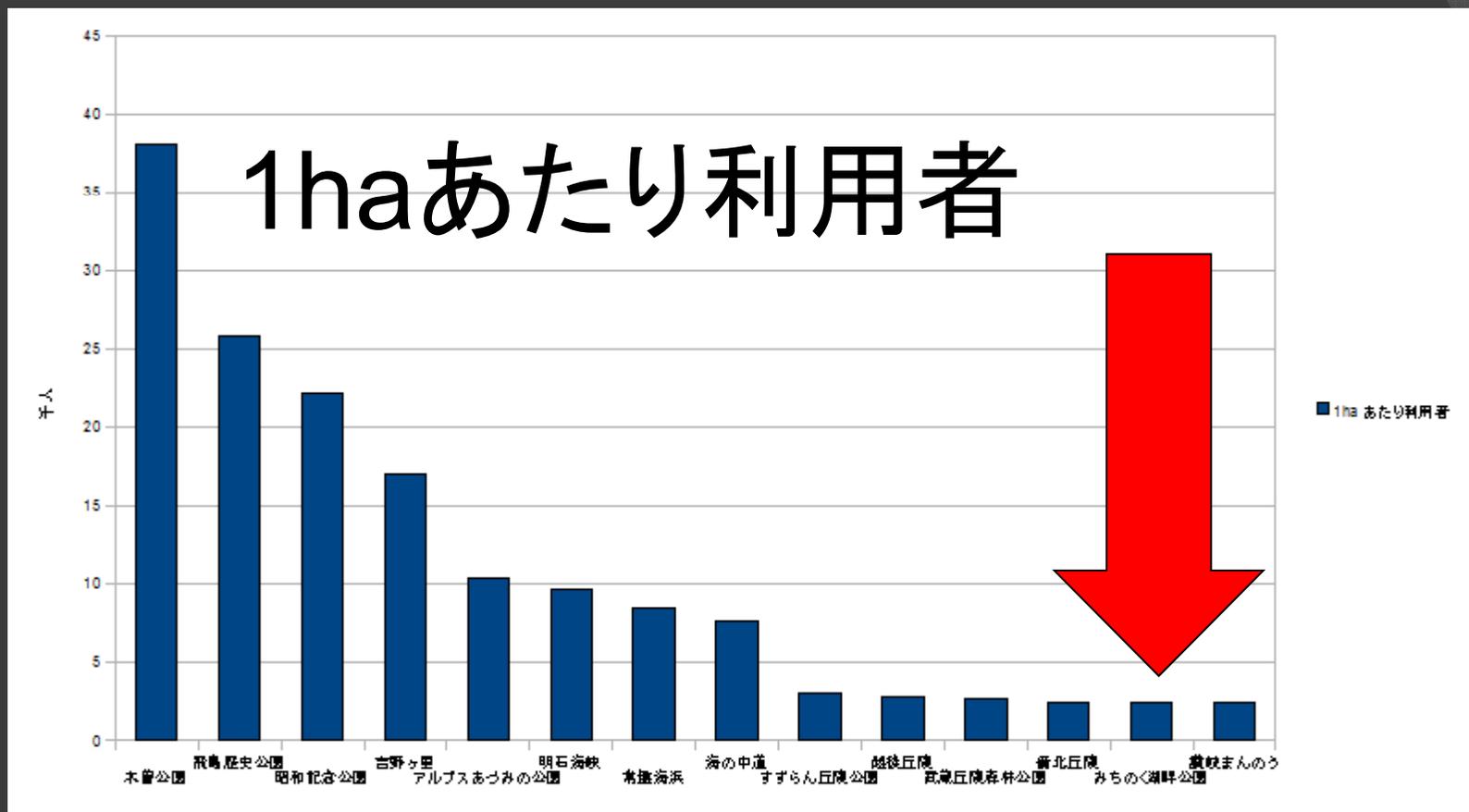
# 利用者の少ない公園

- 国営公園平均
- 千人あたりの維持管理費：44万円

ところが...

- みちのく湖畔公園 58万円/千人
- お金をかけている公園

# 利用者の少ない公園



平成20年度の国立公園利用者数データによると..  
みちのく湖畔公園の1haあたり利用者数:2400人/ha  
他の国立公園に比べて極めて少ない！

この上倍近く広げようというのか！

# 事業仕分けからも...!



- ◎ 予算要求の縮減
- ◎ (3年以内も含め20%)
- ◎ 無駄な拡張などしていない場合ではない!

# 地元へのしかかる負担

- ◎ 維持費 年間約5億円
- ◎ 整備費・補正費も含めると年間約20億超の予算
- ◎ 地元自治体への負担：整備費の1/3
- ◎ 財政を圧迫しているとして、
- ◎ 蔵王町・名取市・川崎町など周辺自治体で負担圧縮を求める声。

# 環境への影響

# 人間活動が環境へ与える影響

- ◎騒音→野生動物が警戒する
- ◎ゴミ→ゴミをあさりに来る動物



森と環境のゾーン(建設予定地)

# 生態系への影響

- ◎ 湖畔公園周辺には、多くの野生動物が生息する。
- ◎ トウホクサンショウウオ
- ◎ ニホンカモシカ
  
- ◎ 人間と野生動物が接触
  
- ◎ 野生動物↓の生態系を変えてしまう

# 結論

- ◎ 以上3つの問題点より
- ◎ 釜房ダム湖畔開発に反対！
- ◎
- ◎ 撤廃しても地域に与える影響は
- ◎ 少ない！
- ◎ 湖畔公園撤廃！

そこで……

アクセス面の問題

経済面の問題

環境面の問題



自然生態観察園としての

散策ルートの提案！

# 自然に調和した場所として

- ◎ 散策（バードウォッチング、森林浴など）を主とした林道。
- ◎ ニホンカモシカだけではない、小動物や昆虫などのオアシスになるもの。
- ◎ 実際に散策できるルートは制限し、環境保全に努める。これによって、野生動物との接触を避けることが出来る。
- ◎ また、生態系の研究にも役立てる。

つまり・・・

自然生態観察ルートとしての  
釜房湖畔の確立

